



月刊

# エネルギー フォーラム

No.712

4  
2014  
April

●フォーラムレポート

再生か解体か?!  
「數士東電」  
という時限爆弾

●緊急座談会

経産省が主導する  
ガス改革の落とし穴

●裏面座談会

エネルギー基本計画の  
「虚飾」を糺す

●多事争論

どうする!  
絶体絶命の「もんじゅ」

報道特集

送配電網を襲う  
コスト削減の  
危機

エネルギーの笑顔は、場の雰囲気を明るくする。故・  
松下幸之助翁の薰陶を受け、自民党的政策立案過程の中核  
を担う中堅政治家は、地道に党の屋台骨を支える。

# 金木淳子

## ●働く人の味方に

衛星中継で流れた米ケネディ大統領暗殺の報道画面が、鮮明に記憶に残っている。ジャクリーン夫人や、子供だったキャロライン・駐日米国大使らが砲車のひつぎを見送る姿だ。当時5歳だったが、幼な心に「何か大変なことが起きた」と思ったことが、政治への関心を抱くきっかけとなつた。

本人に覚えはないが、以来、近所の人たちに将来の夢を聞かれる、「政治家」と答えていたという。愚直に零細な鉄工所を経営する父の後ろ姿を見ながら、「眞面目に働く人たちの味方でありたい」との気持ちが次第に芽生えていった。

## ●志磨いた「塾」

政治への情熱はつるる一方、「普通の家庭出身の自分には無理だ」と打ち消す心もあった。進学先の早稲田大でも、政治家の登竜門たる「雄弁会」の部室の前まで行きながらノックをせずに帰った。

そんな自分の志を高め、背中を押してくれたのが2つの「塾」だった。

ひとつは、東京・日比谷の男子大学生寮「和敬塾」だ。各大学の学生や留学生が入寮し、同じ釜のメシを食う中、部活動や寮の行事を通じて幾多の経験を積んだ。卒業して時折、寮に立ち寄る先輩が、臆することなく天下国家を堂々と語る、そんな雰囲気に刺激を受けた。

もうひとつは、松下幸之助氏が創設した松下政経塾（神奈川県茅ヶ崎市）だ。当時は設立からまだ2年もたたず、何の実績もない私塾でしかない。入塾面接の際、面接官に在塾生の紹介を願い出たところ、対応してくれたのは、後に首相となる野田佳彦氏だった。同期入塾生には、前神奈川県知事で現参議院議員の松沢成文氏らがいた。

## ●政策に血を通わす

1991年に愛知県の瀬戸市議に初当選し、2期8年を務めたのち、2003年に衆院初当選を果たした。

3期目の現在、自民党政務調査会会長補佐に加え、衆議院経済産業委員会理事、同原子力問題調査特別委員会筆頭理事を務めるなど、エネルギー政策にも真正面から取り組んでいる。

「机上の論理にいかに血を通わすか。暮らしの現場の実感や産業界最前線の反応など、現場の生情報を幅広く集めることが、いかに大切かを実感しています」。

## ●安全神話と決別を

エネルギー政策に関しては、「安価で安定した電力供給」こそが、暮らしと産業を支える国の根幹であり、この条件を整える

共振できる「素直さ」を身に着けていたんでしょう。氏の姿から、自然に薰陶を受けていると思います」

### profile 自民党 衆議院議員

1958年生まれ。82年早大法学部卒。松下政経塾、愛知・瀬戸市議を経て、2003年に衆院初当選し、3期目。この間、総務政務官などを歴任し、現在は自民党政務調査会会長補佐、衆議院経済産業委員会理事、同原子力問題調査特別委員会筆頭理事などを務める



ことは、まさしく為政の責任と話す。「代替火力の燃料費による莫大な国富流出が懸念される中、再生可能エネルギー拡大への取り組みは加速するものの、当面は、高度に安全性を高めた上で一定程度の原子力発電所の稼働は必要不可欠となる。安全神話とは完全に決別し、危険性に正面から向き合う中で、最高レベルの原子力制御技術と規制文化を追求しつつ、その過程で国民

の信頼を得ることが必要」と語る。

また、電力システム改革に関しては、「合成功の誤謬」を懸念する。「個々のプレイヤーが利益の最大化を狙う中、全面的な自由化と、良質かつ安価で安定的な電力供給とは本当に両立し得るのか。システム改革が真の国民の利益に結び付くよう、丁寧な議論としつかりした制度設計をする必要がある」と話す。

### ●やきものに瘾し

趣味はやきもの観賞だ。同じ土やうわぐすりを使つても同じものはできない。そこには人間性が出るという。

「当面、損な役回りだとしても、世論ウケを狙つて有権者に媚びたりはしない。後世に恥じない、真に日本のためになる政治、歴史にかなう仕事をしたいですね」